

第1回 空気調和・衛生工学会『特別賞「十年賞」』を受賞 受賞業績名称「中部電力岡崎ビルの運転実績及び維持管理に関する改善」

土木建築部 建築設備グループ

当社は、中電ビル株式会社・株式会社トーエネックとともに平成13年5月15日に開催された社団法人空気調和・衛生工学会の第74期通常総会の席上にて、第1回空気調和・衛生工学会『特別賞「十年賞」』の表彰を受けました。

この『特別賞「十年賞」』は、省エネルギーと省資源の観点からもっとも大切な建築設備の設計趣旨を生かし、大規模な改修をすることなく10年以上の長期間にわたり健全に維持する運用・管理技術の重要性に着目した表彰制度で、昨年4月に創設されました。今回は第1回ということで、特例として平成13年1月1日以前に竣工した建物すべてが対象とされ、5件の業績が表彰されました。

中部電力岡崎ビルは、昭和54年に省エネビルとして竣工したもので、当時の標準建物に比べ、エネルギー消費量の40%削減を目標に設計され、昭和56年には「学会賞」を受賞しています。現在21年経過していますが、当時の省エネ設計思想を保持し20年間の長期にわたる「省エネルギー性の維持・改善」と「維持管理方法の改善」が評価されました。

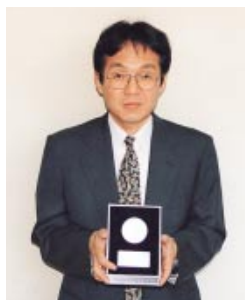
具体的には、空調設備の維持管理について、長期にわたりエネルギー消費量とその影響因子を継続的に調査・分析することで、エネルギー消費の抑制に配慮した運転管理方法の工夫と改善を行い、省エネルギー性を維持していること。また、設備システムの長寿命化をはかるため、長期間の保守管理データ解析・性能検査・劣化診断を基にした維持管理方法の改善・修繕事例等が他のビル管理にも参考となることが評価されました。



土木学会論文賞を受賞

電力技術研究所 構築チーム

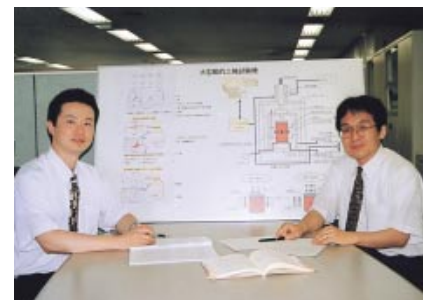
電力技術研究所 構築チームの上田稔さんは、平成13年5月25日に土木学会より論文賞を授与されました。土木学会論文賞は、研究などに関する論文を発表し、独創的な業績をあげ、これが土木工学における学術・技術の進歩、発展に貢献をなしたと認められたものに授与される荣誉ある賞です。今回、1995年兵庫県南部地震の際に観測されたダムの高震記録の解析による高精度な再現に成功した内容を、「ダム岩盤貯水の連成を考慮した重力式ダムの三次元地震応答シミュレーション」と題する論文を発表し、実証的研究成果の工学的価値が極めて高い上、信頼度の高いコンクリートダムの地震応答解析に多大に貢献するとして、受賞したものです。この論文に発表された研究成果は、当社のダムの耐震性評価にも活用されているとともに、多くの研究者らに影響を与えています。上田さんは、「我々の研究が実をむすび、それが評価されて大変うれしい。今後のさらなる研究活動の励みとしたい」と受賞の喜びを語っています。



土木技術協会「高橋賞」を受賞

電力技術研究所 構築チーム

電力技術研究所 構築チームの上田稔さんと熊崎幾太郎さんは、平成13年5月23日に電力土木技術協会より高橋賞を授与されました。この賞は、電力土木技術の進歩に多大な功績を残した高橋三郎氏の名に因み、質の高い研究を通じて技術の発展と向上に著しく寄与した人に授与され、電力土木の分野では権威ある賞として知られています。両氏は、「地震時地盤応答を高精度に再現可能な新しい地震応答解析による電力構造物基礎のコストダウン」と題する論文を協会誌「電力土木」に発表し、高く評価されています。また、この論文で提案されている地盤の新しい地震応答解析法は、すでに当社で多くの電力構造物の耐震設計に役立てられており、この手法によるコストダウンの実績総額は10億円以上に達し、現在もいくつかの地点に適用を検討中です。



左から熊崎、上田